

現代の北米日系人と天理教 ①

おやさと研究所講師
尾上 貴行 Takayuki Onoue

本連載では、北米地域における日系移民の歴史的視点から、アメリカ合衆国とカナダでの天理教の歴史と展開をみてきた。北米の西海岸やハワイに形成された日系コミュニティで、19世紀末に伝道を開始した天理教は、現在も在住する日系人や日本人と密接な関係を持っており、その伝道の今後の展開を考える上で、日系コミュニティの現況を知ることは不可欠である。そこで今回は、現代の北米地域に在住する日系人と日本人、また彼らの形成するコミュニティの特徴についてみてみたい。

アメリカの日系コミュニティ

アメリカ合衆国の2000年の国勢調査によれば、全米の日系人口は1,148,932人で、州別に見ると多い順からカリフォルニア州394,896人、ハワイ州296,674人、ワシントン州56,210人、ニューヨーク州45,237人、テキサス州28,060人、イリノイ州27,702人であった⁽¹⁾。日系人は、戦前と同様に西海岸に多く在住する一方で、その他の地域にも散在するようになっている。

戦後のアメリカ日系コミュニティは過渡期にあるといわれて久しい。戦中から戦後にかけて、コミュニティの指導的役割が1世から2世へと受け継がれ、現代では3世以降の世代が中心的役割を担っている。しかし、アメリカ社会で生まれ育った若い日系人たちは、他の日系人や日本との繋がりが希薄な場合もあり、コミュニティの意義を見出しにくくなっている。アメリカ本土では西部、中部、東部といった地域的な相違があり、日系人が多く在住するカリフォルニアとハワイにおいても、州総人口に占める割合が前者の1.2%に対し、後者は24.5%であるなど⁽²⁾、本土とハワイという違いもある。他人種や民族の人々との婚姻も進んでおり、アメリカの日系人たちは、さまざまなアイデンティティをもった人々を含む、多様で多重なコミュニティを形成するようになった。

アメリカ社会では1960年代の公民権運動以降、アフリカ系、ヒスパニック系、アジア系などのマイノリティ集団の社会的地位が向上し、人種や民族の垣根を超え、異人種や異民族間での婚姻が進んでいる。こうした社会環境の中で生まれた日系人の存在は、日系コミュニティの定義を複雑にし、またその存在意義を問い直すものになっている。人種や民族は、他人が規定するものではなく、自分が選択する時代であるといわれるが、日系人であるということも、血のつながり、身体的特徴、「常識的な」日本文化を有するといった考え方では判断することが出来ず、自らがいかに自己を定義するか、他の日系人との繋がりを認識するかという各自の意識の問題であると考えられる。グローバル化が進み、文化多元主義という概念が展開している現代の北米社会において、日系コミュニティもそのあり方を変化させ続けているといえる。

外務省領事局政策課の『海外在留邦人数調査統計』令和元年版によると、2018年10月1日現在、海外に3ヶ月以上在住している日本国民数は、多い順に、1. 米国446,925人、2. 中国120,076人、3. オーストラリア98,436人、4. タイ75,647人、5. カナダ73,571人となっている。都市別で見ると、ロサンゼルス都市圏は全体の1位で68,823人、3位ニューヨーク都市圏47,563人、10位サンフランシスコ都市圏19,255人、12位ホノルル17,060人であった。アメリカやカナダに長期滞在する日本人は多く、両国とも日本と関わりの深い国であることがわかる。

終戦後、日本に駐屯していたアメリカ軍人と結婚した日本人

女性が多数渡米し定住したり、1965年の移民法改正で人種や出身国による差別が撤廃され、企業駐在者、技術労働者、家族移民として渡米したりすることによって、アメリカに在住する日本人が増加した。こうして戦後アメリカに定住した日本人たちはしばしば「新1世」と呼ばれ、日系コミュニティに新たな要素を加えることとなった。日本企業の駐在員とその家族たちの中には、既存の日系コミュニティとは別にネットワークを形成している姿もみられる。あるいは明確なコミュニティを形成せずに生活していることもある。移住した地域に適応、同化しながらも、アメリカと日本を頻繁に行き来し、日本社会と強固な繋がりを保持したまま生活している日本人たちも多く見られる。祖国の社会的・文化的習慣や価値観を有するトランスナショナルな存在として、このような日本人がアメリカ社会の一員を構成していく中で、既存の日系人たちとどのように交流を深め、新たなネットワークを構築するのか、またアメリカ社会や日米関係にも影響しうる存在となるのか注目される場所である。

カナダの日系コミュニティ

カナダの日系人も多様化している。カナダ政府による2011年の国勢調査では、日系人は109,740人（そのうち約半数の54,840人は他民族系との混血）であった⁽³⁾。戦中の強制収容と戦後の拡散政策により、戦前は西海岸に集住していた日系人たちが中部や東部に移住した結果、現在では地理的に分散し、社会階級、経歴、文化的・社会的背景も異なってきた。またカナダの日系人は他人種・他民族系の人を配偶者とする傾向が強いといわれる。そのような中、戦争で破壊された日系人コミュニティを再建したり、あるいはネットワークを再構築したりする動きがある一方で、その意義を見出せない人々もいる。

1952年以降、日本からの移民が再開され、1960年代に移民法が改正されると、日本からカナダへ移住する人々が増加した。その多くはバンクーバーやトロントなどの都市部に在住している。『海外在留邦人数調査統計』令和元年版によると、2018年10月1日現在、カナダに在留する日本人は73,571人であり、そのうちバンクーバー都市圏は28,281人（全体の38.4%）であり、在留邦人数の都市別では8位、トロントは13,499人（全体の18.3%）で都市別で15位となっている。新たに移住した日本人たちも、他民族の人々との婚姻や世代交代が徐々に進んでいるとされる。

こうした中で、日系人や日本人のコミュニティも多様化し、カナダ社会における日系人、エスニック・アイデンティティ、コミュニティのあり方も模索されている。

[註]

- (1) 在ロサンゼルス日本国総領事館 https://www.la.us.emb-japan.go.jp/web/m07_top.htm 「日系人社会」（アクセス2020年1月5日）。
- (2) 同上「南カリフォルニア概況」より筆者算出、及び中鉢奈津子「ハワイ日系人社会の特徴」『外務省調査月報』2007年度／No.4（外務省第一国際情報官室、2008年）34頁。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/geppo/pdfs/07_4_2.pdf（アクセス2020年1月5日）。
- (3) 2011 National Household Survey: Data tables, Ethnic Origin (264), Single and Multiple Ethnic Origin Responses (3), Generation Status (4), Age Groups (10) and Sex (3) for the Population in Private Households of Canada, Provinces, Territories, Census Metropolitan Areas and Census Agglomerations, 2011 National Household Survey. Source: Statistics Canada, 2011 National Household Survey, Statistics Canada Catalogue no. 99-010-X2011028. <https://www12.statcan.gc.ca/nhs-enm/2011/dp-pd/dt-td/Rp-eng.cfm?LANG=E&APATH=3&DETAIL=0&DIM=0&FL=A&FREE=0&GC=0&GID=0&GK=0&GRP=1&PID=105396&PRID=0&PTYPE=105277&S=0&SHOWALL=0&SUB=0&Temporal=2013&THEME=95&VID=0&VNAMEE=&VNAMEF=>（アクセス2020年1月5日）。